

- 鷺森御坊堀跡出土□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 鷺ノ森遺跡めぐり研修□4
- 本山・教区・各組の動き□6
- つれもて聴こら□8



「紀伊国名所図会」に描かれた江戸時代後期の鷺森御坊

2015年(平成27年)  
4月1日  
第104号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

# 中世末期の鷺森御坊の堀跡出土

鷺ノ森遺跡  
発掘調査



戦国動乱期  
紀州の真宗信仰の中心地  
信長の攻め防ぐ

4・5面に関係記事



④正面に鷺森別院の本堂。手前発掘作業が進められている③3月9日に開かれた説明会のもよう。

# 阿彌陀さま

## ハウツー仏事と私

### ⑥ お香

お仏壇の荘厳(お飾り)の基本は「香・華・灯」と言われます。

香は線香や焼香の香り、華は仏華(仏花)、灯はろうそくの火や輪灯などの明かりです。

これらは阿彌陀さまにお供えするものであると同時に、お仏壇という空間のなかで、阿彌陀さまのお浄土の世界を味わわせていただく工夫でもあります。

今回はそのうち、香についてお話しします。

お香は6世紀ごろ、仏教の伝来とともに伝えられ、寺院の儀式や仏さまへの供養として用いられたと言われています。

お香の香りはすべてに行きわたったり、あたりを清らかに

にし、私たちの心身をすがすがしく安らかにする働きを持っています。

お仏壇の荘厳としては、

その香りによって、阿彌陀さまの浄らかなで分け隔てのないお心、そして阿彌陀さまの世界であるお浄土の浄らかなありさまなどを味わうことができます。

親鸞聖人が尊崇された「七高僧」の第五祖である善導大師が著された『浄土法事讚』には「香偈」という偈文(詩句)があります。

「願はくはわが身浄きこと香炉のごとく、願わくはわが心智慧の火のごとくして、念々に戒定の香を焚焼して、十方三世の仏を供養してまつらん」

身は香炉のように浄らかで、心には香炉に火が宿る

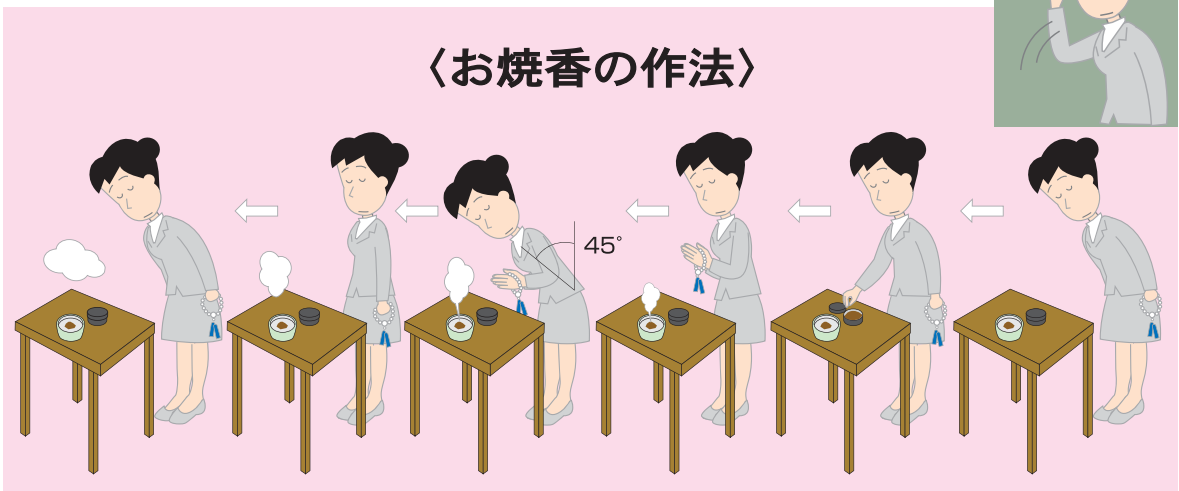
ように智慧の火が宿ることを願いつつ、持戒と禪定の



功徳の香をたき、あらゆる仏さま方を供養し讃えます、

## 仏さまの浄らかなお心味わう

### 〈お焼香の作法〉



和歌山教区教務所「阿彌陀さまと私」  
浄土真宗の葬儀・仏壇・納骨ガイドから

との意味です。

仏前で香をたき、その清らかな香りを阿彌陀さまにお供えすることを「供香」といい、その仕方に「燃

**ラジオ放送番組**  
みほとけとともに  
- 西本願寺の時間 -

◆毎週土曜日 午前5時50分から  
- 和歌山放送 (WBS) -

和歌山・串本	1431kHz
田辺・すさみ	1233kHz
橋本・高野山	1485kHz
新宮・御坊	1557kHz

香」と「焼香」があります。

燃香とは、香炉で線香をたくこと。線香は香炉の大きさに合わせていくつかに折り、横に寝かせて入れます。このとき土香炉という陶器製の香炉を用います。

焼香とは、ご承知のように、香炉に入れておいた炭などの火種に抹香(細かくくだいたお香)をくべることでありますが、このときは金属製という金属製の香炉を用いるのが正式です。

焼香の作法は、①焼香卓の手前で一礼、一礼後少し前へ進む②お香を二回つま

んで焼香③念珠を両手にかげ合掌④上体を45度傾けて礼拝⑤姿勢を正す⑥少し下り一礼(イラスト参照)。

焼香の回数は宗派によって異なりますが、私たち浄土真宗本願寺派(西本願寺)では、一回。なお、お香をつまんだとき、額に押し頂く必要はありません。

親鸞聖人は『浄土和讃』に、「染香人のその身には香気あるがごとくなりこれをすなはちなづけてぞ香荘厳とまうすなる」と、うたわれました。

お香に親しんでいる人は、体から香気を放つように、お念仏に親しんでいる人は阿彌陀如来の智慧の香りで荘厳された人であると、讃えておられます。

お香には沈香、伽羅、白檀などがあり、香りにそれぞれ特徴がありますが、ご予算に応じてできるだけ良い香りのお香をたいて、阿彌陀さまに仏徳讃嘆のお参りをいたしましょう。

(松本教智・御同朋の社会をめぐす運動)和歌山教区委員長



# 新 祖蹟点描

## ⑥ 比叡山 戒壇院

「比叡山中で最も重要なお堂」とされている戒壇院



### 天台宗独自の授戒の場所

も、19歳のときに東大寺で授戒したが、やがてその戒に疑問を抱くようになる。具足戒とは、自らのさとりのみを求めざる者のための小乗戒ではないのか。大乘菩薩道という、自分一人がさとりに至ることを喜ばず、あらゆる生き物がさとりを得ることを願い、そのために道を求める者には、それにふさわしい別の規範があるのではないか。

最澄は52歳のとき、自ら授けられた具足戒を棄捨することを宣言し、翌年、

### 比叡山 戒壇院

場所 滋賀県大津市坂本本町4-2-20  
電話077(5)780001(代)  
交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車、徒歩15分。

出す体制を比叡山につくりたいとの強い思いだった。最澄は「六条式」に言う。「国宝とは何物ぞ。宝とは道心なり。道心あるの人を名づけて国宝となす」。

表現があるのには、思わず膝を打つ。伝教大師が戒壇に込めた願いが今も生きているのを感じるからである。案内文にはこうある。

しかし、大乘戒壇新設は南都仏教界の激しい反対に遭う。最澄は「頭戒論」を

戒壇院は「僧侶が大乘戒(規律)を受ける比叡山中で最も重要なお堂で、わが国に始めて大乘戒壇院を建立すべく、心血をそそがれた伝教大師の没後7日目に勅許を受け、天長5年(828)第一世義真座主により創建されたお堂であり、

# 比叡山で大乗戒授けられ僧に

戒され—僧として守るべき行いである戒を授けられ—正式な僧(比丘)の仲間入りを果たされたはずである。ただし、その正確な年齢は分からない。

もともと東大寺、下野(栃木)の葉師寺、筑前(福岡)の観世音寺が天下三戒壇といわれ、僧になろうとする者は、これらのいわば国立の戒壇で受戒する必要があった。その際に授けられる戒を具足戒といい、その数は二百五十戒におよぶ。

天台宗独自の「大乘戒壇」の新設を求める。大乘戒という独自の概念は、『梵網経』に説かれる五十八戒(十重禁・四十八軽戒)に基づくものだった。

かくも大胆な行動に最澄を走らせたのは、菩薩道を歩む僧、道心(求道心)に燃える僧こそが国の宝であり、そのような人物を生み

著して反論したが生前は許されず、弟子たちの奔走もあって、滅後7日目に、大乘戒壇新設の勅許が下りたのだった。大乘戒壇の新設は、日本仏教史上画期的な出来事だったのである。

【参考文献】 蘭田香融 『〈宗派別〉日本の仏教1 天台宗』(小学館)

京都タワーから比叡山を望む



戒の授受の場所を「戒壇」というが、比叡山に初めから戒壇があったわけではない。

師最澄(767~822)

戒壇院は根本中堂にほど近い小高い一角にある。その案内用駒札に、「比叡山中で最も重要なお堂」との

表紙編集部)



# 巨大な堀跡 往時まごまご

## 鷺森御坊の遺構発見を受けて別院で研修会

和歌山教区  
「御同朋の社会を  
めざす運動」  
推進研修会



参加者で埋まった鷺森ホール



鷺森御坊を取り囲んでいた巨大な堀跡。堀幅16~17m(は当時最大級の規模)写真右端の斜面上端から左手奥の城北小学校校舎手前までが堀幅に当たる

### 歴史的大発見に立ち会い感激

天正8(1580)の場所が本願寺の本山にな  
0)年に織田信長 るわけですが、今回の発掘 調査では、頭如上人一行が  
との11年におよぶ 上陸された鷺森御坊の裏門  
戦争が勅命により 和乎となつて、当 時のご門主である 頭如上人が大坂本 願寺から船で鷺森 に着られました。 以後3年余りこ

蘭田香融師



和歌山教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)推進研修会が3月9日、82人が参加して鷺森別院で開かれた。第1部は「子ども・若者と縁づくり」の推進について、キッズサンガをさらにのテーマで松月博宣師(福岡教区)が講義。第2部では、鷺森別院南側の城北小学校グラウンドで進められている発掘調査で、幅16mを超える鷺森御坊の戦国時代の堀跡が見つかるという大発見を受け、現地説明会のあと、別院ホールで蘭田香融師があいさつ、武内善信師が「戦国期における鷺森御坊の役割」と題して講義を行った。

に当たる場所が出土するとい  
いう痛快な話でございまし  
て、実際に生々しい昔の跡  
を目にすることができて大  
変感激いたしました。  
頭如上人が来られてから  
5年経って和歌山城ができ  
たとき、鷺森御坊と和歌山  
城を結ぶ道路がつくられま  
した。これが中橋筋で、浅  
野時代に和歌山の城下町が  
つくられた際、その都市計  
画の基準点となった道路で

あります。  
南海電車に乗って和歌山  
市駅に着く前にお城の方を  
見ますと、1ヵ所だけパツ  
と見通せる場所がございま  
す。これが中橋筋ですが、  
この道路を、和歌山近世史  
を長年研究された故三尾功  
氏が「ヴィスタ」(見通し  
目当て)と表現されたのは、  
言い得て妙であります。  
大坂の町は大坂本願寺か  
ら、和歌山の町は鷺森御坊  
から始まりました。どうぞ  
和歌山の町の原初の風景の  
一端を目に焼き付けておい  
てくださればと思います。  
(和歌山組妙慶寺前住職、  
関西大学名誉教授)

### 信長との合戦で鷺森へ退去想定か

今回の鷺ノ森遺跡(城北  
小学校)発掘調査により、  
戦国時代の鷺森御坊を考  
える上で重要な情報が得ら  
れたので報告したい。

和歌浦御坊山(秋葉山)か  
ら鷺森へ御坊が移転したと  
きに堀が掘られたとしても、  
天正2(1574)年ごろ

の鷺森御坊増築整備の際、  
また同5年の信長の雑賀攻  
め、さらに同8年に本願寺  
が退去して来たころの、い

れたようだが、天正2年ご  
ろ、八間半に七間の本堂と  
六間半に五間半の御主殿が  
新たに造営され、以前の  
本堂は対面所に改修された。  
これは大坂本願寺合戦  
(石山合戦)の最中であり、  
本来なら鷺森御坊の増築な  
どせずに、その費用を戦費  
にまわさなければならぬ  
時期である。

ずれる時に  
か拡張され  
たと推測す  
るのが妥当  
であろう。

それにもかかわらず、本  
堂と御門主が居住するため  
の御主殿を新築し、多くの  
門徒と引見するための対面  
所に以前の本堂を改装した  
ということ、本願寺はい  
ざという際には鷺森へ退去  
することを、この時点で考  
えていたと推察できよう。  
そうであるなら、守りを

武内善信師

### 「戦国期における鷺森御坊の役割」



特に、鷺  
森御坊増築  
整備は重要  
だと考える。  
御坊山から  
鷺森に移転  
した際、六  
間四方の本  
堂が移築さ

間四方の本  
堂が移築さ  
れたようだが、天正2年ご  
ろ、八間半に七間の本堂と  
六間半に五間半の御主殿が  
新たに造営され、以前の  
本堂は対面所に改修された。  
これは大坂本願寺合戦  
(石山合戦)の最中であり、  
本来なら鷺森御坊の増築な  
どせずに、その費用を戦費  
にまわさなければならぬ  
時期である。

### 鷺森に移転時、周囲に人家少なかった可能性

掘状況から見ると、  
御坊が移転するま  
で鷺森自体は人家  
が少なかったと判  
断してよからう。  
鷺森が位置する  
宇治には三日市や  
六日市があり、六  
斎市(毎月6回開  
催された定期市場)  
が開かれていたこ  
とは知られていた。  
しかし、鷺森でそ  
れほど遺物が検出

約7500坪が鷺森御坊の  
土地として地子免許(地稅  
免除)された。浅野家によ  
り和歌山の城下町が建設さ  
れたが、鷺森周辺は地子免  
許地として昔のままの地割  
が残る。元の鷺森寺内はそ  
れほど大きくなく、せいぜ  
いこの範囲だったのかもし  
れない。  
(和歌山北組善勝寺住職  
和歌山市立博物館学芸員)

### 鷺森御坊関連年表(武内善信師作成)

文明18年(1486)	蓮如上人が紀州に來訪(その後、清水の了賢に二尊像下付、下付年代不明)
永正4年(1507)	二尊像が清水道場から黒江の道場に移転。黒江に御坊が成立
天文19年(1550)	秋、御坊が黒江から御坊山(秋葉山)に移転
永祿6年(1563)	御坊が御坊山から鷺森に移転
元龜元年(1570)	9月、大坂本願寺合戦(「石山合戦」)始まる
天正2年(1574)	鷺森御坊の本堂を対面所に改修し、新本堂と御主殿を造営
天正5年(1577)	2~3月、織田信長の雑賀攻め
天正8年(1580)	大坂本願寺合戦講和により、4月本願寺が大坂から鷺森に移転
天正11年(1583)	7月、本願寺が鷺森から貝塚に移転

強化しておく必要がある。  
当然その際、堀を拡張し、  
掘った土砂で土塁を積み上  
げた可能性が高い。  
第二に、鷺ノ森遺跡発掘  
調査の結果、古墳時代後期  
末から飛鳥時代にかけての  
倉庫群と住居跡が  
検出され、古代の  
安定した生活面と  
湊の施設が確認さ  
れた。しかし、鎌  
倉以降の出土遺物  
が極端に少なくな  
る。室町後期にな  
ると遺物が少し増  
加してくるが、発  
掘状況から見ると、  
御坊が移転するま  
で鷺森自体は人家  
が少なかったと判  
断してよからう。

されたいないのであるから、  
市は少し離れた場所があり、  
鷺森寺内は寺内町というほ  
どには周囲が町場化してい  
なかったのではなからうか。  
本願寺の御坊の場合、劣  
悪な条件ではあっても、権  
力の干渉排除を第一に志向  
して立地されていることが  
多い。鷺森寺内の創成も、  
人家が少ない所に御坊がま  
ず移転され、しばらくして  
寺内が形成され、少し離れ  
た元からの市場や湊と有機  
的に結びついたら想定した  
方がよからう。

慶長6(1601)年、  
当時の和歌山城主である浅  
野幸長によって64石余り、  
約7500坪が鷺森御坊の  
土地として地子免許(地稅  
免除)された。浅野家によ  
り和歌山の城下町が建設さ  
れたが、鷺森周辺は地子免  
許地として昔のままの地割  
が残る。元の鷺森寺内はそ  
れほど大きくなく、せいぜ  
いこの範囲だったのかもし  
れない。



盟連 婦連 寺結 成30周年

# 課題を共有し実践活動を展開

## 沖縄研修で平和の大切さを再確認

### 記念大会

2014年12月22日、本願寺鷺森別院を会場に「和歌山教区寺族婦人会連盟結成30周年記念大会」が開催され、教区内寺院から130人が参加した。

和歌山教区寺族婦人会連盟は、会員相互の連絡、協議、講習など、寺族婦人会運動の振興を図ることを目的として結成され、30年という節目を迎えた。この間、聞法中心の連続研修会、現地研修会、聖跡巡拝、コーラスなど、さまざまな事業が展開されてきた。

この大会は、先人の指導に感謝の意を表すとともに、教区内の寺族女性が課題を

共有し一層の寺院振興を図るため、広く実践活動を展開していくことを再認識する場として、『お寺の女性の生き方』をテーマとして開催。

記念講演では、『聴くことと生きること』と題した、都路恵子氏(仁愛大学講師、仏教研究家)のお話を聞いた。

### 研修旅行

和歌山教区寺族婦人会連盟では、終戦70年の節目を迎える今年、「非戦平和」の願いを決して忘れることのないようにと、1月27日～29日の3日間、2年に1度の研修旅行を沖縄で実施した。



撮影 沖縄宗務事務所前で記念

撮られた壕の跡に立つ慰霊碑、ひめゆりの塔を巡った。

参加した30人それぞれが、戦争の恐ろしさや悲惨さを肌と感じながら、平和の大切さと平和への願いをあらためて自覚する旅行となった。

戦時中、日本軍の高射砲陣地として使用された座喜味城跡をはじめ、国連出版の『世界の平和博物館』にも収録されている佐喜真美術館、沖縄戦最後の激戦地であった摩文仁にある平和祈念公園、沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に立つ慰霊碑、ひめゆりの塔

## 得度習礼講習会を初開催

和歌山教区では、3月13日～14日の2日間、初めての開催となる「得度習礼講習会」を実施した。

宗派得度式規程の改正を受け、2015年4月1日以降に得度習礼を受ける場合、事前にこの講習会を本

山または各教区で受講することが義務化されたことにより開かれたもので、今後とも年度内1回の開催を予定。

講習会には、教区内外から7人が参加。中岡順忍教務所長による「宗制の大意」の講義、教区内特別法

## 念仏奉仕団3組実施

和歌山組、和歌山北組、海草組

3月5日から6日に実施された本願寺念仏奉仕団で、和歌山教区から和歌山組31人、和歌山北組31人、海草組42人の合わせて104人が参加した。



心込めて御影堂の豊拭き

4人がご本山に参拝し、御影堂をはじめ境内各所の清掃奉仕活動に精を出した。

念仏奉仕団は本願寺の清掃奉仕を通して、愛山護法の念を深め、親鸞聖人のみ教えに学ぶとともに、仏恩報謝の生活にいそしみ、真の念仏者としての自覚と意識を高める機縁とすることを目的として実施されており、10名以上の団体から申し込むことができる。

鷺森テレホン法話  
073-422-0243

- こころの電話 (海南組西光寺) TEL(073) 487-2430
- ヤングこころの電話 (同上) TEL(073) 487-0404
- こころの電話 (御坊組専福寺) TEL(0738) 44-0874



五条袈裟の威儀の結び方を実習

務員の指導による衣体の被着法、本堂内陣の荘厳説明

正信念仏偈のお読めや御文章拝読の練習、内陣出勤の実習などが行われた。

参加者らは、日ごろの疑問を講師陣に質問するなど活気ある講習会となった。

## 青色青光



楽しい初めこが  
いっぱいある!!

# キッズサンガ

WAKAYAMA  
Photo News  
フォト・ニュース

2/15 40人

**加茂組 正光寺**



お餅つき

有田南組

2/14 57人

**円光寺**

割り箸鉄砲

## 青色青光

このコーナーでは、各組・寺院で取り組まれているキッズサンガを紹介いたします。ぜひ写真、資料を和歌山教区教務所宛に送付ください。

なお、紙面の都合上掲載できないこともございます。あらかじめご了承ください。

### 海南組で「組活動推進事業」研修会

海南組浄国寺で2月22日、「組活動推進事業」一研修会が開催された。教区門徒総代会の事業である当研修会は、2013年度まで「モデル事業」の名称で開催されていたが、今回(2014年度)から内容を若干変更したものが、今回担当した海南組では、この研



話し合い法座で活発な意見交換

修会を開催するにあたり、休眠状態にあった組の門徒総代会の活性化を図った。昨年3月9日に組内各寺院の門徒総代から代表者を選出し、「門徒総代代表者会」を開催。規約も改正し、2014年度から総会、研修会を開くなど、同総代会の活動再開を実現した。

研修会当日は、組内門徒総代をはじめ、教区内各地から72人が参加。海南組の活動報告の後、連研中央講師の季平博昭師が講師を務め、「お寺と門徒を結びつける取り組み」あなたにとってお寺とは...をテーマに話し合い法座を開き、活発な意見交換を行った。

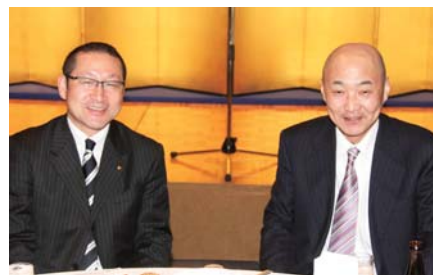
ホテルグランヴィア和歌山で2月12日、昨年12月1日付で鹿児島別院へ転任した高橋格昭前輪番、同じく鷺森別院に着任した中岡順

### 新旧輪番バトンタッチ

歓送迎会に教区内から120人

忍輪番の歓送迎会が開かれ、教区内僧侶・門徒をはじめ、鷺森別院、鷺森幼稚園関係者120人が参加した。

あいさつに立った高橋前輪番は、「2年8カ月の在任中は本当にお世話になりました。着任して間もない頃、過疎地域の住職不在の寺院を訪ねた際、総代さんをはじめ、門徒さん方が一生懸命お寺を支え、法座を開いておられる姿に接し、これがお寺の原点ではないかと強い印象を受けました。このときの体験を胸に動めてまいりましたが、難



歓談する中岡輪番と高橋前輪番

い課題を残したまま転任することとなり、申し訳ない気持ちもしております。続いて中岡輪番は、「42年前に父の中岡順孝が鷺森別院の輪番をいたして

ましたので、親子2代で当別院の輪番を拜命することとなり、不思議なご縁を感じております。皆さま方に支えていただきながら、精いっぱい努めさせていただきます」とあいさつ。

その後、高橋前輪番に記念品、2人に花束が贈呈された。会食後は、松本教智組長会長の音頭で万歳三唱し、閉会した。

### 日高別院の催し

■常例法座 4月20日、大皇信隆師(岸和田市土生町・正光寺)。

■降誕会・花まつり・湯川忌法要 5月10日、午後1時からお勤め。引き続き、御坊幼稚園児らが、お釈迦さまと親鸞聖人のお誕生をお祝いする催しを開催。

■総永代経 6月20日、午後1時30分からお勤め。富岡隆弘師(たつの市揖保川町・即応寺)が法話。(本願寺日高別院 御坊市御坊100)



# つれもて 聴こら

親鸞聖人は、「南無阿彌陀仏」というのは阿彌陀さまのお喚び声であるとお示しくございました。

著書である『教行信証』に、「『南無』の言は歸命なり。：『歸命』は本願招喚の勅命なり」(『註釈版聖典』170頁)とあります。

阿彌陀さまが私に対して、**「帰せよと命じてくださるの**が、南無阿彌陀仏という六字のお名号なのです。帰せよとは、任せなさいということですよ。つまり「あなたをお浄土に生まれさせ、仏にするから私を任せなさい」と命じてくださったというの、阿彌陀さまなのです。ここで注目していただきたいのが、招喚という言葉

と勅命という言葉です。これはどちらも阿彌陀さま側

からの一方的なお喚び声であり、命令であるということですよ。

しかし一方的に任せなさいというのは、よほど自信

がなければ言えないことではないでしょうか。

阿彌陀さまはこの私を、必ず仏にするという自信があるのです。なぜなら五劫永劫という私たちには到底理解できないほどの長い時間をかけてお救いを成就し

てくださった仏さまだからです。だからこそ阿彌陀さまは自信をもって、任せなさいと喚んでくださっているのです。

阿彌陀さまは、法蔵菩薩という修行中の身であった時に、まず私たちのありようを知ることから始められました。救い取る対象のことが分かっていなければ救

いようがないからです。まず阿彌陀さまは、私たちがどこまでいってもこの生死の苦しみを抜け出して

いくことができない存在であるということを見抜かれました。私たちは、年を取りたくないと思いつつながら年を取り、病気になるにつれ、思いながら病気になる、死にたくないと思いつつながら死んでゆき、そしてまたこの苦しみの世界に生まれてゆく存在です。

このように、生死の苦し



## 「我に任せよ」のお喚び声

抜かれたのです。

しかし阿彌陀さまは、仏になるために何の手立ても持たない私たちに対し、「私が救うから、せめて30点だけでも取りなさい」ということはおっしゃいません。「0点の私を救うために100点満点の仏になる」と誓いを立ててくださったのです。ですから、**「南無阿彌陀仏」と私たちが喚んでくださる仏さまに成ってくださったのです。**

今、この口から「南無阿彌陀仏」と出てくださるのは、五劫の思惟も永劫のご修行も全て終わって、「もう準備は整ったから安心しなさい」と阿彌陀さまが喚んでくださっているからなのです。そして同時にそれが、私たちが間違はなくお浄土に生まれさせていただき、仏に成らせていただく証なのですよ。

### 鷺森別院の催し

#### ■二尊会

5月13日から16日の4日間、恒例の二尊会を鷺森別院で勤修する。午後1時30分からお勤め、2時15分ごろから、季平博昭師(尾道市美ノ郷町・法光寺)の法話を聴聞する。なお、この期間は午前中に、各教化団体の集いが開催される。

#### ■宗祖降誕会

5月21日、宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝いする降誕会を開催する。午前10時からお勤め、引き続き中岡順忍輪番の法話がある。

#### ■総永代経

6月14日、午後1時30分から本堂で阿彌陀経をお勤め。引き続き、金澤豊師(浄土真宗本願寺派総合研究所)の法話。

#### ■常例法座

4月15、16日、帆保真澄師(朝来市生野町・極楽寺)。6月、15、16日、大畠信隆師(岸和田市土生町・正光寺)。毎座、午後1時30分から3時30分。



# 響流十方

## 4~6月の催し

### 本山

- 4月13~15日 春の法要・立教開宗記念法要
- 4月17~18日 大谷本廟総追悼法要
- 5月19日 誕生会(日野誕生院宗祖降誕会)
- 5月20~21日 宗祖降誕会
- 6月1~2日 広如忌(角坊)
- 6月5~8日 大谷本廟納骨・永代経法要

### 和歌山教区

- 4月3日 スカウト本願寺派仏教章取得のための研修会(鷺森別院)
- 4月7日 教区仏教壮年会連盟理事会(鷺森別院)
- 4月10日 広報伝道部会(鷺森別院)

### 教区内各組

- 4月18日 仏教婦人会総連盟総会(本願寺)
- 4月25日 恵信尼さま顕彰平和の日の集い(本願寺)
- 5月13日 教区寺族婦人会連盟集い(鷺森別院)
- 5月14日 教区仏教壮年会連盟集い(鷺森別院)
- 5月15日 門徒総代会集い(鷺森別院)
- 5月16日 教区仏教婦人会連盟集い(鷺森別院)
- 5月23日 第6期連続研修会⑦(鷺森別院)
- 和歌山東組 6月上旬 第5期連続研修会修了式(会場未定)
- 和歌山西組 4月5日 組内会(正圓寺)
- 4月未定 組寺族婦人会例会(正立寺)

- 5月10日 第16期連続研修会①(正圓寺)
- 5月23日 組仏教婦人会連盟総会(正圓寺)
- 5月未定 組門徒総代会委員長会・総会(万福寺)
- 5月未定 組仏教壮年会連盟総会(浄福寺)
- 6月7日 組内会(願成寺)
- 和歌山北組 4月19日 第1回組内会(慶圓寺)
- 5月17日 第2回組内会(慶圓寺)
- 5月23日 第11期連続研修会⑫・修了式(慶圓寺)
- 日時未定 組仏教婦人会総会(未定)
- 日時未定 組門徒総代会総会(未定)
- 加茂組 5月31日 組総代会総会(願称寺)
- 6月14日 組会(願称寺)
- 海南組 4月5日 組仏教婦人会総会・研修会(遍照寺)
- 5月24日 組仏教壮年会総会・研修会(未定)
- 6月6日 組会(了賢寺)
- 6月21日 組総代会総会・

- 研修会(未定)
- 6月28日 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)委員会(了賢寺)
- 海草組 6月未定 組仏教婦人会総会・研修会(未定)
- 6月未定 組門徒総代会総会(報徳寺)
- 6月未定 組仏教壮年会総会(報徳寺)
- 6月未定 組門徒総代会・仏教婦人会・仏教壮年会・寺族女性会合同研修会(報徳寺)
- 6月未定 組寺族女性会総会・研修会(未定)
- 伊那組 4月15日 組寺族女性会総会(教善寺)
- 5月8日 組仏教婦人会連盟総会(円照寺)
- 5月25日 組小委員会(橋本・極楽寺)
- 6月10日 第1回組内会(橋本・極楽寺)

- 5月10日 組仏教壮年会連盟総会(専念寺)
- 6月6日 組会(かめや)
- 有田南組 4月26日 組仏教婦人会総会(宝林寺)
- 5月未定 組会(称念寺)
- 5月未定 組仏教壮年会総会(興善寺)
- 6月未定 組総代会総会・研修会(福蔵寺)
- 6月未定 若婦人会総会・研修会(安楽寺)
- 有田北組 4月18日 組会(西光寺)
- 5月16日 組仏教壮年会総会(未定)
- 5月20日 組仏教婦人会研修旅行(大阪)
- 5月31日 組総代会総会(浄満寺)
- 6月未定 組研修部総会(西方寺)
- 日高組 4月4日 第9期連続研修会②(円行寺)
- 4月29日 日高組仏教婦人会物故者追悼会・総会(会場未定)
- 6月6日 第9期連続研修会③(円行寺)

- 御坊組 4月4日 組会(日高別院)
- 5月16日 第7期連続研修会⑦(日高別院)
- 5月未定 組仏教婦人会総会・研修会(日高別院)
- 6月未定 組仏教壮年会総会・研修会(日高別院)
- 6月未定 組総代会総会・研修会(日高別院)
- 紀南組 4月4日 組会(光顔寺)
- 4月12日 組仏教婦人会総会(善福寺)
- 5月未定 組総代会総会(未定)
- 6月未定 組寺族婦人会総会(妙道寺)
- 敬 弔 12~2月
- ▽川口利憲(有田北組蓮光寺・衆徒) 12月20日
- ▽津村力ナエ(和歌山組浄専寺・前坊守) 1月7日
- ▽玉井トミ子(伊那組慈願寺・住職) 1月17日
- ▽栗本淳子(和歌山西組長徳寺・衆徒) 2月7日
- (生前の活躍(尽力)に感謝申しあげ、謹んで敬弔の意を表します。



# 鷺森別院

## 10年ぶりに本堂他修繕

### 外壁に傷み 4月に完了予定

2015年1月から4月までの4カ月間、本願寺鷺森別院では境内建物・境内各所修繕並びに境内地の整備工事を進めています。

鷺森別院の現本堂は1990(平成2)年春、別院ゆかりの「顕如上人400回忌法要」を勤修し、その記念事業として教区の同朋同行の熱き懇念が結集し、1995(平成7)年に再建されました。

その後、2005(平成17)年春に「本願寺第8代蓮如上人500回遠忌法要・本願寺鷺森別院本堂再建10周年記念法要」を勤修するに当たり、記念事業として

2004(平成16)年に本堂屋根・外壁などの改修工事を行いました。それから10年が経過し、



見つかった本堂屋根瓦のむくれ

節電対策のため照明器具の一部をLED照明に交換。山門は、柱と外壁のモルタル剥離と瓦のずれを補修し、階段に側溝を新設。境内各所では、南西門の扉補強、同門スロープ部分のアスファルト舗装、同門扉の瓦積み直しなどの補修工事。

さらに、不要になった受水槽と基礎コンクリートの撤去を行います。



ひび割れの目立つ南西門スロープ部分

なお、この工事にかかる総経費は約4300万円です。鷺森別院会計において積み立てられてきた営繕積立金、本山並びに教区助成金を元に特別会計を設けて支出いたします。

建物の外壁などの経年劣化による傷みが著しいため、参拝者や隣接の幼稚園の園児や保護者の安全確保、また景観上の問題を考慮し、境内建物と境内各所の修繕、境内地の整備をすることになりました。

主な工事内容は、本堂の外装工事として、屋根瓦の一部に見つかった「むくれ」の修復、外壁や外部柱などの塗装劣化や水漏れなどによる傷みの補修工事。本堂内装補修工事として

- 5月13日から始まる恒例の二尊会法要は、修繕が完了した本堂でお勤めする予定です。ぜひ多くの皆さまにご参拝いただき、きれいになった別院の建物や境内地をご覧ください。
- 【経過説明】  
 2014(平成26)年  
 6月24日 本願寺鷺森別院財産管理委員会開催  
 6月26日 鷺森別院総代諮問・本願寺鷺森別院責任役員会議開催  
 11月6日 ご門主御認証  
 11月7日 公告(〜18日)  
 12月18日 入札会  
 12月24日 業者契約(三友工業株式会社)  
 2015(平成27)年  
 1月19日 着工  
 4月下旬 工事完了予定
- 【設計管理者】  
 株式会社アステデザインルーム(和歌山市十三番丁52AZビル6F)
- 【施工業者】  
 三友工業株式会社(和歌山市湊2丁目12番27号)



改修工事中の鷺森別院(3月10日撮影)



1995年再建当時の鷺森別院本堂